

2017年度 交換留学 留学報告書

英語英米文学科 3年

留学先：イギリス サセックス大学

留学期間：2017年4月～2018年1月

私は英語が大嫌いでした。今どき英語が話せることや留学経験は特別なことではなく当たり前になってきています。留学する前の私は仕方なく英語を学び、社会に出てから語学力が必要だと思ったから留学を志望しました。私にとって英語や異文化交流は、好きだから勉強したいこと、興味があるからやりたいことではなく、勉強しなければいけないこと、将来必要だから得たい経験でした。イギリスでの生活が始まってからも、伝わらないことや出来ないことばかりでした。落ち着いて考えれば簡単な文法でも、会話になると聞き取れない、話せない状況が続きました。やっぱり英語は向いていなかったと何度も思ったし、留学した代わりにできなかったことがたくさん見えてきて、留学したことに対する後悔や、留学したのに何も得られていない焦りをいつも感じていました。

そんな中で、「今日はどんな1日だった？」と毎日聞いてくれるホストファミリーや、英語を話す練習に付き合ってくれるクラスメイトの影響から、伝わらないことを恐れなくて自分から積極的に人と関わるようになりました。少しずつ自分の英語に自信を持てるようになりました。アカデミックの授業が始まってからは、ネイティブの学生と同じ授業を受けて、同等に評価されました。真剣に話を聞いていても理解できないことのほうが多く、グループワークやディスカッションでは周りの学生に助けられてばかりでした。しかし授業を重ねていくうちに、発言できたことが自信になったり、意見が伝わることの喜びを感じたりして、英語の楽しさが分かるようになりました。

また、勉強することの楽しさもこの留学中に学びました。日本にいるときはただ先生の話聞いてレポートを提出することが大学での勉強だと思っていました。しかしイギリスでは自分の意見や考えを発言することが求められました。勉強することに受け身の姿勢をとっていた私にとって、何かを真剣に考えて発言することはとても難しいことでした。また、積極的に授業に参加している現地の学生に圧倒されました。それでも、自分の考えをなんとか伝えることが出来ると、授業に参加できていることや新しい知識を得ていることを体感できました。自分の意見や考えを持ち、それを発信していくことは簡単なことではないけれど、それが出来てこそ何かを学んでいることなのだと思います。

10か月の間に色々な経験をしたり、たくさんの人に出会ったり、良いことも悪いこともその一つ一つがかけがえのないものだったと留学を終えて思います。私にとって英語は勉強したいことになって変わってきました。留学する機会を持てたこと、私の留学を日本から応援してくれた人や一歩踏み出す勇気をくれた人、イギリスで支えてくれた人たちに心から感謝しています。この経験をこれからの人生に活かしていくことで、イギリスでの10か月をもっと意味のあるものにできたらと思っています。

2017年度 交換留学 留学報告書

英語英米文学科 3年

留学先：イギリス サセックス大学

留学期間：2017年4月～2018年1月

イギリスへの交換留学は、周りの人への感謝で溢れていた日々でした。語学コースでは特に、学校の授業だけでは英語の勉強が足りないのではないかと焦りを感じていました。また、初めの1ヶ月はイギリスでの生活に早く慣れなければいけない、留学に来たからにはもっと頑張らないといけないのではといった気持ちが強く、プレッシャーを自分自身に与えてしまい、毎日自分は何をしたいのか、何の為に留学へきたのかなどについて考え、留学生活に不安を感じていました。このような悩みを同じフェリスから来ている子達と共有することで心が軽くなったり、自分一人だけが悩んでいるのではないと分かることで負担が減ったりしたので、周りに相談すること協力し合うことが一番大切だと感じました。また、焦ったり、ネガティブに考えたりすることよりも、その時にできる全てのことを前向きに取り組む大切さも学びました。

そして、私の留学生活の中で一番のトラブルと言えるホームステイ先でのトラブルからも色々なことを学びました。私はホームステイ先でのトラブルで、急遽家を引っ越しすることになったのですが、その際に色々な人に助けをもらい周りの人に頼ることの大切さ、早めに行動し決断し、自分の身を自分で守ること、また自分を過信しすぎないことが重要だと学びました。このトラブルがあった際に一番に相談していたのは周りの友達で、アドバイスを多くもらい、家のことで悩んでいて不安定な時もいつも話を聞いてくれたのは友人だったので、本当に自分は周りに助けられて生きていると実感しました。留学中では特に一人で解決しなければいけないことが多いですが、そんな中周りのサポートがあることで救われたので、できるだけストレスのないように生活することが心身の健康にも繋がると学びました。しかし最後は自分の決断力、行動力が必要になってくるので、決断力や行動力も自然と身についたと思います。

大学の授業が始まってからも、人種差別や大学生活での悩みについて友人と話すことが多かったです。特に人種差別についてはアジアから来ている留学生と話す機会が多く、お互いにどのようなことを経験したか、どのように対処するべきかなどを話すことで気持ちが軽くなり、他の人の考えを聞くことで悲観的に考えることが少なくなり価値観や考え方の幅も広がったと感じます。このように、留学前までは留学中は何でも一人でやり遂げなければならぬと気を引き締めていましたが、実際に留学してみると日本にいた時よりも周りの人との関わりが多く、積極的にコミュニケーションをとる大切さを学びました。特に留学生という立場で生活していると、同じ留学生と同じ悩みや立場を共有することでより深い関わりを持つことができ、一人で生きているのではなく周りに助けられて生きているのだと強く感じることができました。

私の留学生活の中で一番の成長は、多くの人と関わり協力し合い、認め合うことができたことだと感じます。日本へ帰っても留学生活でのことを忘れずに、常に周りの人々との関わりを大切に、感謝の気持ちを忘れずに持ち続けていきたいです。

2017年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：イギリス サセックス大学

留学期間：2017年4月～2018年1月

私の留学の大きな目標のひとつとして、勉学に励むことができました。前期の授業だったので、国際関係や国際開発における理論や基礎的な定義などを学び直しました。フェリスで学んだときよりも、全てが英語だからか、より専門的で複雑に感じました。また、授業のためのリーディングやエッセイを書くにあたり、参考にする資料も、現地の学生が参考にするものと同じだったので、彼らの理解の域に届くまでそれらを読み込み、理解していくことは本当に大変でした。他の留学生は、そのリーディング以上にプラスの文献も読むなど努力していましたが、私はその必須のリーディングで一杯一杯だったことが反省点です。しかし、これらのことから、彼らの勉強の仕方が分かり、どのようにその分野を掘り下げて理解していくかが分かったので、ひとつの成果でした。また、自分の国際関係についての考えが甘かったことも分かりました。国際関係や国際開発は私が考えるよりも複雑で大変なものでした。様々な資料を参考にすることで分かったことでした。参考文献を読めば読むほど、新たな知識を得たり、自分の考えが確立されていくことに気が付いたことも、自分にとって、留学で得たひとつの大きな成果だったと思います。

留学を通じて考えたことは、国際関係や国際開発を勉強する意義です。いくらそれらを勉強しても、人種差別やテロは日常的に発生していることを目の当たりにしてから、その分野を勉強する意味について考えることが多くなりました。正直、私が勉強しても意味がないと思っていましたが、知識と経験を得たことは、かけがえのないことでした。この勉強した経験を通し、これからは、より社会や国際関係に興味を持ち、積極的に情報を収集する原動力ともなりました。国際関係学は、社会で生きている人全員に関係があり、生きていくうえで必要不可欠な学問だと、イギリスでの生活を通して感じました。滞在中にテロがあり身の危険を感じたり、紛争地域から来て永久にイギリスに在住する学生と出会ったことにより、留学前まで考えていた世界と異なる、「本当の世界」に住んでいたような気がします。日本にいた時は、テロなど遠くで起きていることだと思っていたことが身近で本当に起きていると知った時は、非常に衝撃的でショックでした。

イギリスでの生活やサセックス大学での感じたことや見たこと、知ったことを決して忘れず、残り1年間の学生期間はもちろん、社会人になっても、世界情勢に向けた視野を広くし続け、自分の得た多くのことを大切にしていきたいです。